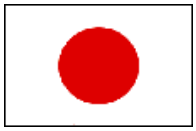
2022/05/19 発行



国民と自衛隊との架け橋！

隊友 湘南支部ニュース

令和４年５月号（No.223）

発行責任者
公益社団法人隊友会 神奈川県隊友会
湘南支部長 清﨑 忠圀
平塚市豊原町 23 - 14
Tel(Fax)：0463-31-6718

「一丁目一番地」を問う

特別会員 井岡 成吉

“一丁目一番地”

この表現、何かと聞いた記憶がある…。政治家が語るなんとなくわかったような気になる印象的な言葉であったとの記憶である。試しにネットで「一丁目一番地」と検索してみると「最優先課題や最重要事項といった意味の政治用語」であるとの結果が見て取れた。

もともとは政治の世界で使われ始めた表現で最重要事項・最重要施策の喩えであり、加えて前提や基本的・精神的なニュアンスも含まれていてたいへん便利な永田町世界の俗語がその源であるとのこと。１９８０年代頃に登場し、その後の橋本内閣の梶山官房長官が行政改革で使い始め、小泉総理や鳩山総理の頃にも便利に用いられて政治の世界で浸透・定着したとされ、やがて一般人が使用しても概ね理解されやすい表現となるに至ったそうである。

確かに演説や答弁などで「〇〇は、××の、まさに“一丁目一番地”なのであります！」と来ればとても耳触りの良い決め台詞となること間違いなしである。聞いた方は印象としては何となく分かったような気持ちになるが、実は良く分からない。果たして本当に必要な事を行うのか？実現する為の戦略・戦術はあるのか？ 着手の算段を付けているのか？…、期待はしたいがその後の「一丁目二番地あるいは二丁目一番地はあるのか？」と心配になる。

一方、実際の「一丁目一番地」は全国各地に数多ある、同様に国政の世界でも政治家の数だけ最優先課題・最重要事項があると言えるのかも知れない。所変われば、人が替われば「一丁目一番地」ばかりで、どの「一丁目一番地」を最優先に着手するのか？国家としての適時的確な優先順位を付けきれていないのが今の日本の政治実態なのではという気がする。

「日本を護りぬく」という大命題においてもそれぞれの立場で「一丁目一番地」が異なり、戦後の『ＷＧＩＰ「ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム」（戦争についての罪悪感を日本人の心に植え付けるための宣伝計画）』の呪縛から逃れられない組織・人々と本来の日本の歴史観を取り戻そうとする組織・人々の間では当然正反対の「一丁目一番地」となり、国の根幹たる憲法の内容や国軍の保持にあってでもさえ然りである。

実際、日本の政治リーダーの有り様が心配で仕方がない（安倍政権以降も頼りにしたい方々はいるのだが、ふさわしいポジションを得ているかどうかは疑問がある…）。明治期に遭遇した帝国主義時代の日本の危機感と現在の危機状況は本質的に同じだと感じており、軍事力（相手への打撃力）の優劣で力関係が変化することにも変わりはないと思うのだが、手枷足枷に呪縛を加えた戦後日本の方がより悪い状況にあると認識した方が私は良いと考える。

大雑把な言い方になるが…、国家体制こそ違えても各々の「一丁目一番地」がある中、国家としての優先を選択し、資金及び人的・技術的リソースを集中させるのは政治（国政）のリーダーの役割である。国家間での主権や安全保障に係ることに対しては諸外国とも国益の為に全力を挙げて臨んで来るのは明白であり、特に国防政策・安全保障については自国のリソースをリーダーが最大投入するのは当然なのである。

奇しくもプーチンが「核をも含めた力による現状変更を真正面から行う」という時代の幕を開けてしまった。時代が変化したのである、前例主義の官僚のステージではない。つまりこれからは国家体制の如何を問わず、変化に対応できる政治リーダーの力量次第で行く末が決まる動的な時代に突入したと見るべきなのではないかと思う。

ドイツはウクライナ戦争を仕掛けたロシアを念頭に時代の変化に対応すべく防衛費の拡大をすかさず決意したが、果たして日本はどう舵を切るのであろうか？

東アジアにおける自由主義陣営の日本は、力を信奉する「習近平率いる中国共産党、プーチンのロシア、金正恩の朝鮮…」の３正面に脅威を抱えているにも係わらず政治決断が遅く、表現が鈍い。つまり日本の打撃力向上と継戦能力の強化実現によるパワーバランスの向上が日本のみならず“自由で開かれたインド太平洋”における安全保障の環境構築にとっても急務であるということが多くの政治家に理解されていないのではと不安になる（むしろ中・朝・露に味方しているのではないかと疑念が生じてしまう…）。言い換えれば変化に対応することを放置し、中国との軍事力の差を今以上に拡大させると「実力行使を誘発して戦闘行為に至るリスクを高くする」ということが広く政界に理解されていないことに苛立つのである。

孫子の兵法を現代に適応させている中国では、まずは「百戦百勝は善の善なるものに非ず。戦わずして人の兵を屈するは善の善なるものなり」なのである、戦わずして勝つのが最良なのであり、微笑みの衣の下には刃なのである。「…戦力が五倍に開いたら中国は実力行使に出ます、そこまで差を広げさせないことが大事です。今取り掛からないと日本は間に合いません…（某ＴＶ番組にて、村井友秀 防衛大学校国際関係学科教授）」このコメントが日本国としての「一丁目一番地」を端的に表していると私は思う。つまり、軍事力バランスを引き離されない努力とこれを実現する予算投入が「一丁目一番地」であり、これらを最優先としなければ、領土・領空・領海を筆頭とする主権及び国益の大損失に繋がりかねないということなのである。

ある芝居の舞台上で修羅場にたどり着いた者に、「よく来たな…、ここは二丁目のないところだ…」というセリフがある、つまりはもう後がない地獄に来たのだ…という意味である。

どうか日本国を「地獄の一丁目」だけには導かないで頂きたい。「一丁目一番地」に着手し、二番地～三番地、二丁目～三丁目と進んで行き、政治を司る方々には日本を護る為のリーダーシップを発揮して頂きたい、危機に際し「巧遅は拙速に如か

編集委員：深澤文晴 ,℡: 090-4542-1982, Mail: f_fukazawa@yahoo.co.jp

ず」なのである。

緩すぎはダメ

支部理事役　皷　達也

すぐパワハラ、きつい仕事はしたくない！！今の若者はと思われている方が多いのではないか。

２０１５年には若者雇用促進法が施行、会社の平均残業時間などを公表する義務が記され、２０１９年には働き方改革法関連により労働時間の上限規制が大企業を対象に適用、２０２０年にはパワハラ防止法も施行された。週労働時間を見てみると１９９９―２００４年卒は４９．６時間、２０１９―２０２１年卒では４４．４時間、残業時間では約４５時間であったものが最近では２０時間まで減少している（リクルートワークス研究所「大手企業侵入社会人の就労状況定量調査」２０２１）

しかし、ホワイトな企業を不安視し去る若者が多いことをテレビで知り驚いた。せっかく法改正によりパワハラや残業する可能性が減り緩くなったのになぜ去るのか？

理由の一つに、「別の会社や部署で通用しなくなるのではないかという不安」と回答が多い。定時で帰宅し、叱られることなく、人間関係の良い職場であるにもかかわらず自分のキャリアを考えて不安になる。いわゆるブラック企業の社員から見ればなんと贅沢なことかと思われるかもしれない。視点を変えると、個人として向上心が強くキャリアプランをしっかり持っている人がいると考えられる。これがいわゆるＺ世代である（※アメリカの世代分類を指す言語。バブル世代と比べて現実的な面を重視する傾向が強く、自分の価値観を重視する傾向が強いとされる）。知人でも医療・農業・飲食店などで起業している人がおり、これから起業する人もおり、ＪＩＣＡで外国にて何年も活動している人もいる。皆、２０～３０歳台で、子育て中の人もいる。個人的には女性の方がアクティブな印象がある（統計など根拠はない）。即応予備自衛官も同様で本業の職種は様々であり広い分野で活躍している。複数の仕事に従事している者は単純に金銭だけではなく個人のキャリア向上を目的とする場合が多く、非正規社員であってもいきいきとしている。最近ではＳＤＧｓや社会貢献に重きをおく者がおり会社の事業の社会的意義を意識しており給与だけで就職先を決定していない者も一定数いる。

企業側は会社に貢献してもらいつつも社員個人の魅力に繋げないと退職されてしまうので管理者は業績だけでなく社員個人のキャリアプランや価値観を把握してそれが企業にどう貢献できるのかつなげる必要があると思う。若い世代は、会社が育ててくれるという終身雇用の時代の考えではなく、自分が会社や職場を使って育つという視点を持っており、職場環境を緩くしただけでは魅力を感じない。

自衛隊の任期制隊員であってもキャリア形成や社会的意義が明確に伝わり魅力に感じさせることができれば若者は集まるはず（私も自衛官のネットワークは今でも活用している）。多少きつい仕事や労働条件が悪くとも、今後のキャリア向上などの魅力があれば人は集まる。単純な緩すぎではダメなのである。

隊友紙手配り協力員の募集

支部理事役　佐藤　友昭

隊友会湘南支部は隊友紙手配り協力員を募集しています。

手配り協力員とは、ある区域内に居住される会員宛ての隊友紙をまとめてその区域の代表者にお届けし、代表者から区域内の会員に隊友紙を届けていただく。この代表者を手配り協力員と称し、現在１８名の手配り協力員により３５名の会員へ隊友紙をお届けしています。

応募者のご住所の周辺に居住される会員がおりましたらご案内させていただきますが、これは湘南支部運営費を圧縮するための方策であるため無報酬での作業依頼となります。あなたのご近所に会員が居住されているかもしれません。手配り協力可能な方はお気軽にメールにてご連絡ください。

担当：佐藤
メール：tomoaki1955122@outlook.jp

令和４年度年会費納入者（順不同・敬称略）

湘南支部長（五月十五日現在）

次の会員各位から年度会費を納入していただきました。ご協力に感謝申し上げます。

特別法人会員

㈱櫻井興業、テクノブリッジ㈱、

特別会員

野村昌平、金子勇二、府川太郎、河野太郎、和栗清、尾上洋一、加藤大嗣、国松誠、大野直人、穴山千津子、牧石健志、小池淑子、藤井孝剛、塩坂源一郎、田邊明生、井岡成吉、左奈田幸一、木村俊雄、窪田朗、小見山雅、原田勝夫、平形武夫、荒木裕高、森崎賢治、高鹿治雄、桜庭憲昭、田中宏治、濱口浩二、栩木実、小林勉、渡邊直、加藤健治、

正会員

伊藤靖史、岡崎光博、石川潤一、

ご寄付のお礼

正会員　遠藤　武氏（９３歳）より湘南支部に、ご寄付金を受け賜りました。誠にありがとうございます。温かいご支援に心より厚くお礼申し上げます。

（湘南支部長）

おめでとうございます

叙勲受章者（敬称略）

瑞宝中綬章　岡崎　匠（茅ヶ崎市）

新入会員のお知らせ（敬称略）

正会員

・菅原政弘　寒川町岡田
元航空自衛隊　府中基地

謹んでご冥福をお祈り致します

故　小野　宏　氏（藤沢市）
令和４年４月７日　ご逝去

「支部の予定」

- **06/11（土）**
  第３回支部理事役会
- **06/18（土）予備 6/19**
  名称旧跡探勝
- **06/22（水）**
  ６月隊友紙発送
- **07/21（木）**
  ７月隊友紙発送
- **08/06（土）**
  第４回支部理事役会
- **08/17（水）**
  ８月隊友紙発送

編集後記

ロシアの富豪７人が、謎の死を遂げています。反戦派の富豪に対する見せしめなのか、富豪の資産没収なのか。今後とも各種ジャンルに亘る、ご寄稿のご協力を宜しくお願い致します。

編集委員：深澤文晴　,℡:　090-4542-1982,　Mail:　f_fukazawa@yahoo.co.jp